



7月に入り、総会後の初めての理事会を5日に開催。改選後ということもあり、理事+監事合わせて40名以上で自己紹介を行い、それぞれの総会の感想や理事としての想いを述べる。理事会としても従来の「法制化推進委員会」、「組織検討委員会」、「人材育成プロジェクト」に加え、新たに「外国人・外国籍を持つ人々の就労と共生に関するプロジェクト」、「コミュニティ事業・就労支援条例(案)に関する検討委員会」、「就職氷河期世代対策を全世代型の共生ケアに発展させるプロジェクト」を立ち上げること、また従来の地域労協会議を一旦止め、代わりに地域別の協同労働推進会議を開催することを提案。法制化時代に向けて、新しい労協連づくりが始まる。

当初より予定していた地域労協会議 in 山口は、予定通り7月14-15日に開催。全国の加盟組織と本部から19名が参加し、受け入れとなったワーカーズコープ山口からも15名が参加。元ワーカーズコープ山口の理事であった中本英宏さん(組合員籍は残っている)が柳井の白壁町並みで古民家を活用して夫婦2人で立ち上げた「カフェやないろ」を視察。1階のカフェスペースだけでなく、2階のフリースペースを解放することで、親子連れが多く集まる場所となり、併せて飲食も購入してくれることで、事業計画で予定した売り上げを概ね達成しているとのこと。

今後、子ども食堂の開催など、さらに地域の方が集まる拠点づくりを目指す。

ワーカーズコープ山口の作業場では、全国でも珍しい道路の側溝のコンクリート製の蓋の製造を視察。いかに気泡を含まないように製造する工夫などを教えてもらう。夜は、ワーカーズコープ山口の組合員によるバーベキュー。地元の釣ったばかりの魚や郷土料理である山賊焼きなどをいただきながら、交流を深める。

2日目は、ワーカーズコープ山口が昨年新たに立ち上げた放課後等デイサービスすだっちの組合員が全員参加。すだっちの取り組みと一人ひとりの思いを話してもらう。それぞれ、これまでの障がい者施設・保育施設・支援学校での教員で感じてきたこと、更には障がい者を家族で抱える想いなどを伝えながら、子どもたちに必要な多様なプログラムを行っていることや、1年で放課後等デイが定員いっぱいとなるなか新たな施設や卒業後の施設づくりへの意欲を話す。

参加した加盟組織の方々からは、新たな部門を立ち上げることで、新しい人たちが組織に加わり協同労働を実践。その働き方が、これまでの組合員にも影響を与えることを目の当たりにした、などの感想が寄せられた。地域労協会議は一旦これで止めるが、加盟組織が集まり、お互いの協同労働の実践を学ぶことは、新たな枠組みでも継続していきたい。

ワーカーズコープ山口で開催した地域労協会議の一場面



地域労協会議の様子



バーベキューの準備



道路の側溝のコンクリート製の蓋製造



砂浜清掃



カフェやないろの視察